

## 秋まき小麦ほ場の融雪剤散布について

本年は1月10～12日と2月20日にまとまった降雪があったものの、先週末からの好天により、積雪深は平年より少なくなっています(表1)。

土壌凍結は1月10日までまとまった降雪が無かったものの、28cm程度と令和3年よりも浅くなっています(帯広市ながいもほ場での調査結果。2月15日現在)。

極端に早い融雪は、凍上による根浮きを助長し生育不良になる場合がありますので、注意してください。

表1 2月28日現在の積雪深 (各アメダス地点の値)

	帯 広	帯広泉	芽 室	上札内
積雪深	42cm	35cm	40cm	50cm
平年値	48cm	66cm	57cm	70cm
平年比	88%	53%	70%	71%

### 1 散布時期

平均気温が-3℃以上になる頃で、最高気温が0℃を越える日が続く、新たな降雪の予報がない時期に散布します。当管内では、3月5日～15日頃が散布作業を始める目安となります(表2)。

表2 日平均気温が-3℃以上となる日 (注:アメダス地点の平年値(1991～2020)より)

帯 広	帯広泉	芽 室	上札内	更 別
3月5日	3月11日	3月11日	3月15日	3月13日

### 2 融雪剤の選定

土壌 pH が低いほ場は炭カル入り融雪剤、土壌 pH6.0 以上のほ場はアルカリ分を含まない融雪剤を選びましょう。

表3 主な資材の使用例

資 材 名	散布量の目安
防 散 融 雪 剤	20～40kg/10a
防 散 融 雪 炭 カ ル	40～60kg/10a

### 3 融雪剤散布上の注意

- ・ 散布後に20cm以上の積雪があった場合は、再散布が必要です。
- ・ 融雪水が停滞する場所は排水対策(溝切り)をしましょう。
- ・ 早すぎる融雪は凍害を招くことがありますので注意しましょう。

**安全確認で農作業事故を防ぎましょう!**